

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520412

研究課題名(和文)二〇世紀中国演劇における「記録」とメディアの多角的研究 - 劇評・新聞・画像を中心に

研究課題名(英文) A Multifaceted Study of "Record" and Media of Chinese theater in the 20th Century:
Focusing on the Stage Reviews, Newspapers and Images

研究代表者

藤野 真子 (FUJINO, Naoko)

関西学院大学・商学部・准教授

研究者番号：20332653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「記録」という概念に基づき、新聞、雑誌に掲載された劇評などの文字資料と画像資料の双方を用い、メディアと二〇世紀中国伝統劇の影響関係を明らかにした。研究を進めるにあたっては、日本、中国、台湾の図書館において各種資料の調査を行った。見落とされてきた様々な「記録」を見いだすことにより、中華民国伝統演劇史の不備を補うことが本研究の目的である。

研究成果の概要(英文)：This study based on the concept of "record", clarified the effect relationship of media and Chinese traditional drama in the 20th century, and it is conducted using both documents (such as stage review that was published in the newspaper or magazine) and images. In order to advance this study, we investigated the various literatures in the library of Japan, China and Taiwan. And the purpose of this study is makes up for deficiencies of Republic of China of traditional theater history by finding the various "records" that had been buried.

研究分野：中国文学

キーワード：中国演劇 民国期メディア

1. 研究開始当初の背景

(1) 近現代中国伝統演劇に関しては、1990年代後半以降、相当数の研究業績が蓄積されている。本研究の研究代表者および研究分担者は、「京劇史研究会」の活動を中心に、近現代伝統演劇資料の訳注や研究発表等を継続してきた。これまでも基盤研究(C)「新中国建国前後における伝統劇の多角的研究」(平成18・19年度科学研究費補助金、課題番号:18520273、研究代表者:松浦恆雄)を通じ、新中国建国前後の中国演劇の諸相を解明してきた。

(2) 上記研究活動を経て、メンバー各自が戯単や新聞、雑誌などのメディアと演劇との相関性を重要視するに至った。研究代表者の藤野は中華民国期上海の伝統劇の発展とメディアとの相関性を指摘してきた。研究分担者は、松浦が戯単・戯考・特刊など演劇的言説の分析を、田村が言説空間としての小新聞(タブロイド紙)と人的ネットワークとの相関性を、三須が小新聞と新興の伝統劇との関連性を、平林が上海の近代劇場「新舞台」がメディア機能を獲得する過程を、それぞれ研究してきた。本研究は各自の事例研究の成果を統合し、メディアによる二〇世紀中国演劇の「記録」をマクロな視点から整理し、新たな史的枠組みの構築を目指すものであった。

2. 研究の目的

(1) 演劇を「記録」する主体と、「記録」手法の解明: 演劇を「記録」する劇評の多くは、1910年代中盤以降、批判的視点を持つ「劇評」へと変化する。それに応じて形成された「批評言語」について、同時代資料を用いて解明を進める。他方、写真や絵画など図像による演劇「記録」について、上演場面を特定するなどして、「記録」側が備えていた批判性を浮き彫りにする。

(2) 演劇「記録」の舞台に対する影響の解明: 本格的な批評性と発信力を備えた劇評が実際の上演の場に与えた影響力を考察する。他方、演劇規範を知識として持たない書き手の言論が、演劇界に影響を持つようになる。そのメカニズムを、新聞、雑誌の他、映画、レコード、ラジオなど各種メディアとの相関性に留意しつつ解明する。

(3) 演劇の「記録」の発表媒体とその流通形態の解明: 演劇「記録」の多くは、新聞の娯楽欄や総合文芸誌の特集ページに発表される。1920年代には演劇専門誌が刊行される一方、従来の研究では文芸系の新聞・雑誌における「記録」の見落としが多い。本研究は各ジャンルの出版物に目配りし、上海、台湾での現地調査を実施し、「記録」を発掘することで民国伝統演劇史の不備を補う。また、出版物の読み手と演劇自体の観客との相関性を考察する。

3. 研究の方法

(1) 定例研究会の開催(各年5回程度): 研究成果・研究情報の共有、近現代演劇資料に関する検討会、研究打ち合わせ。

(2) 資料調査の実施: 国内各大学図書館において、民国期伝統演劇関係資料の資料調査を行う。中国・上海図書館近代文献部、上海市档案馆、北京首都図書館、台湾・中央研究院において、民国期伝統演劇関係資料の資料調査を行う。国内外にて関連書籍・映像資料等の購入を行う。

(3) 収集資料のデータベース化および関連論考の紙媒体・WEB上における発表。

(4) 国内外研究機関および研究者との連携: 早稲田大学演劇博物館「演劇映像学連携研究拠点」、中国戯曲学院(北京)と連携、国際的評価に耐えうる研究水準を維持し、成果を発信する。平成25年度に中国戯曲学院主催「京劇国際学術シンポジウム(京劇国際学術研究会)」にて報告。

4. 研究成果

(1) 演劇を「記録」する手法の分析に関し、劇評を中心とする研究を行った。以下主要なものとして、藤野は論文『心聲半月刊』と1920年代上海の伝統演劇において、上海で刊行された雑誌『心聲半月刊』掲載の劇評を分析、同時代の批評対象の描写および批評言語の運用に関しその特質を論じた。また「記録」の諸相を論じたものとして、田村は口頭発表「京劇のなかの女性像 悪女と聖女・イメージと役柄の変遷」および「たたかう女性像の系譜 近現代の中国演劇における戦闘少女と寡婦」において、中国演劇における女性の形象の、時代や地域の要請による変化を分析した。後者は論文「革命叙事と女性兵士 中国のプロパガンダ芸術における戦闘する女性像」としても発表された。同様の研究として、劇中人物の形象から看取しうる英雄と児女の系統的変遷について論じた松浦の口頭発表「英雄の気と児女的情 劉知遠白兔記」が挙げられる。

(2) 演劇の「記録」が、舞台および周縁に与えた影響に関する研究を行った。以下主要なものとして、梅蘭芳とそのブレイクが「古装新戯」の確立過程で多方面における改革を進め、それが国粹化と結びついていく状況をそれぞれ論じた平林の口頭発表「古装新戯與京劇の国粹化 1910年代京劇の新・旧・古」および論文「古装新戯的“古”與“新” 一略論梅蘭芳《天女散花》及其他」、「古装新戯の誕生 『嫦娥奔月』初演の文脈と古装の由来」が挙げられる。また、京劇の周縁を記録した研究として、民国期に映画化・舞台化された小説『秋海棠』の滄劇におけるアレ

ンジおよびその演劇史的意義をそれぞれ論じた三須の論文「もうひとつの『秋海棠』上海滬劇史の一断面」、京劇の影響を専門紙の劇評等から読み取った藤野の論文「越劇の老生 民国期の状況と発展の可能性」、同じく藤野によるメディアと崑劇の関連を論じた口頭発表「『新楽府』と『仙霓社』崑劇伝習所出身者の民国期上海における上演活動」が挙げられる。

(3) 各種メディアや刊行物の調査を踏まえ、民国伝統演劇史の不備を補足しようと試みた研究を行った。以下主要なものとして、民国期上海演劇の動向をより詳細に分析した田村の論文「『孤島』時期上海跨劇種的互動關係 兩種『明末遺恨』及『改良』之口號」、解明が不十分な日本における中国伝統劇の受容状況を分析した平林の口頭発表「大正期日本と梅蘭芳 京劇の第二伝統と大正期日本人の“支那劇”観」が挙げられる。平林は関連するものとして、論文「那宅花園における梅蘭芳と大倉喜八郎の邂逅 1919年梅蘭芳帝國劇場公演の起点と『天女散花』」を執筆している。また松浦は、これまで注目されることの少なかった音声(ラジオ)を主とするメディア研究として、「聴衆からみた電化教育 『広播週報』を中心に」と題した単著論文を発表した。

(4) 本研究課題の研究成果の対外発表として、以下2つのシンポジウム参加が挙げられる。まず、平成25(2013)年5月17日-19日に中国北京において、中国戯曲学院主催の国際シンポジウム「梅蘭芳與京劇的傳播 第五屆京劇學國際學術研討會」に書面ないしは口頭発表で参加し、民国期京劇の多様な背景について各人が考察を行った。藤野は「民国時期的“麒派文化”」において上海京劇の名優・麒麟童が上海演劇界に与えた影響を、平林は「1919年梅蘭芳訪日演出的“始”與“末” 古装新戲『天女散花』與大倉喜八郎」において梅蘭芳と受け入れ側の日本文化人との関わりを、田村は「一九一五年北京的坤劇與劇評家辻聴花」において北京の京劇女優に対する日本人劇評家の批評スタンスを、三須は「申曲與京劇的影響關係」において上海の地方劇・申曲と京劇との影響關係について、各々独自の視点を以て論じ、現地中国の研究者、および台湾等の中国演劇研究者から高い評価を受けた。また、翌平成26(2014)年1月11日-13日に北京大学中国言語文学系・中国文芸研究会共催で開催された「聚散離合的文学時代(1937-1952)學術研討會・新生代二十世紀中国文学研究工作坊」において、藤野が「越劇老生の形象」で越劇の老生における京劇の影響について、田村が「二十世紀京劇的記憶與紀錄」で画像や絵画を中心としたビジュアル記録と京劇との関連について論じた。

(5) 藤野は上記研究成果の総括として、『上海の京劇 メディアと改革』を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計12件)

松浦 恆雄、聴衆からみた電化教育 『広播週報』を中心に、野草、査読有、第94号、2014年、pp.84-106

平林 宣和、那宅花園における梅蘭芳と大倉喜八郎の邂逅 1919年梅蘭芳帝國劇場公演の起点と『天女散花』、芸文研究、査読無、No.106、2014、pp.52-64

平林 宣和、中国伝統演劇と現代日本 改革開放後三〇年の軌跡、文学、査読無、3・4月号、2014、pp.116-123

藤野 真子、越劇の老生 民国期の状況と発展の可能性、言語と文化、査読無、第17号、2014、pp.79-93

田村 容子、革命叙事と女性兵士 中国のプロパガンダ芸術における戦闘する女性像、地域研究、査読有、vol.14 No.2、2014、pp.92-111

田村 容子、「孤島」時期上海跨劇種的互動關係 兩種『明末遺恨』及『改良』之口號、戯劇學刊、査読有、第19期、2014、pp.7-30

平林 宣和、古装新戲の誕生 『嫦娥奔月』初演の文脈と古装の由来、近現代中国の芸能と社会 皮影戲・京劇・説唱、査読無、1巻、2013、pp.179-198

三須 祐介、もうひとつの『秋海棠』 上海滬劇史の一断面、広島経済大学研究論集、査読無、第35巻第4号、2013、pp.115-129

藤野 真子、『心聲半月刊』と1920年代上海の伝統演劇、商学論究、査読無、第60巻第1・2号(合併号)、2012、pp.603-621

三須 祐介、明滅し揺らめく欲望 林懷民「赤シャツの少年」を読む、野草、査読有、第90号、2012、pp.121-140

平林 宣和、古装新戲的“古”與“新” 略論梅蘭芳《天女散花》及其他、戯曲學報、査読有、第10期、2012、pp.221-231

平林 宣和、中華戯曲専科学校及其時代 1930年代中国社会对戯曲的認識與実

践、伝承 創造 生命 李玉茹與 20 世紀下半葉京劇創造演出學術検討會論文、査読無、1 卷、2012、pp.235 - 243

[学会発表](計 20 件)

平林 宣和、梅蘭芳與大正時期的日本
京劇第二伝統和大正時期日本の“支那劇”
形象、武漢大学文學院・哲學院(招待講
演)2015 年 3 月 18 日 - 20 日、武漢大学
(武漢市、中国)

平林 宣和、大正期日本と梅蘭芳 京劇
の第二伝統と大正期日本人の“支那劇”
観、東アジア古典演劇の「伝統」と「近
代」2014 年度第 2 会研究会、2015 年 3 月
2 日、国際高等研究所(京都府木津川市)

田村 容子、京劇研究者・劇作家齊如山『齊
如山回想録』、中国文芸研究会「自伝・回
想録を読む会」、2014 年 11 月 30 日、関
西学院大学梅田キャンパス(大阪府大阪
市)

藤野 真子、「新楽府」と「仙霞社」
崑劇伝習所出身者の民国期上海における
上演活動、日本現代中国学会 2014 年度関
西部会大会、2014 年 6 月 7 日、龍谷大学
ともいき荘(京都府京都市)

藤野 真子、越劇老生の形象 民国時期
の発展状況、聚散離合の文学時代(1937
- 1952) 學術研討會、2014 年 1 月 11 日
- 13 日、北京大学(北京市、中国)

松浦 恆雄、程小林的故事 廐名『橋』
の結構、聚散離合の文学時代(1937 -
1952) 學術研討會、2014 年 1 月 11 日 -
13 日、北京大学(北京市、中国)

田村 容子、二十世紀京劇的記憶與紀錄、
聚散離合の文学時代(1937 - 1952) 學術
研討會(新生代二十世紀中国文学研究工
作坊)2014 年 1 月 11 日 - 13 日、北京大
学(北京市、中国)

三須 祐介、因“隱”而“曝” 『申曲
日報』中の演員日記與上海日常生活、聚
散離合の文学時代(1937 - 1952) 學術研
討會(書面参加)2014 年 1 月 11 日 - 13
日、北京大学(北京市、中国)

平林 宣和、大正期日本における「支那劇」
イメージ 梅蘭芳の帝国劇場公演につ
いて、早稲田大学演劇博物館演劇映像学
連携研究拠点「日本における中国古典演
劇の受容と研究」成果報告シンポジウム、
2013 年 12 月 21 日、早稲田大学(東京都
新宿区)

平林 宣和、梅蘭芳の古装新戲と大倉喜八

郎 1919 年梅蘭芳帝国劇場公演の起点
と『天女散花』、慶應義塾大学藝文シンポ
ジウム「京劇と日本 梅蘭芳を中心に」、
2013 年 12 月 20 日、慶應義塾大学(東京
都港区)

松浦 恆雄、聴衆からみた電化教育 ラ
ジオドラマを中心に、頭脳循環プログラ
ム総括シンポジウム「東アジアにおける
集団とネットワーク 伝統都市から近
現代都市への文化的転回」、2013 年 12 月
6 日、大阪市立大学(大阪府大阪市)

三須 祐介、オルタナティブな『秋海棠』
引き裂かれ変奏される四〇年、シン
ポジウム「分裂の物語・分裂する物語」、
2013 年 8 月 3 日 - 4 日、愛知大学(愛知
県名古屋市)

藤野 真子、民国時期的“麒派文化”、梅
蘭芳與京劇的伝播 第五届京劇学国際学
術研討會、2013 年 5 月 17 日 - 19 日、深
セン大厦(北京市、中国)

平林 宣和、1919 年梅蘭芳訪日演出的‘始’
與“末” 古装新戲『天女散花』與大
倉喜八郎、梅蘭芳與京劇的伝播 第五届京
劇学国際學術研討會、2013 年 5 月 17 日
- 19 日、深セン大厦(北京市、中国)

田村 容子、一九一五年北京的坤劇與劇評
家辻聴花、梅蘭芳與京劇的伝播 第五届京
劇学国際學術研討會、2013 年 5 月 17 日
- 19 日、深セン大厦(北京市、中国)

三須 祐介、申曲與京劇的影響關係、梅蘭
芳與京劇的伝播 第五届京劇学国際學術
研討會、2013 年 5 月 17 日 - 19 日、深セ
ン大厦(北京市、中国)

平林 宣和、古装新戲與京劇的国粹化
1910 年代京劇的新・旧・古、“新潮演劇
與新劇的發生” 国際學術研討會、2012 年
12 月 23 日、前門建国飯店(北京市、中
国)

松浦 恆雄、英雄の氣と兒女の情 劉知
遠白兔記、上方文化講座、2012 年 8 月 31
日、大阪市立大学(大阪府大阪市)

田村 容子、たたかう女性像の系譜 近
現代の中国演劇における戦闘少女と寡婦、
近現代戦の表彰比較研究 戦争のメモリ
ー・スケープ、2012 年 7 月 15 日 - 16 日、
北海道大学スラブ研究センター(北海道
札幌市)

田村 容子、京劇のなかの女性像 悪女
と聖女・イメージと役柄の変遷、越境す
るイメージ メディアにうつる中国

(招待講演) 2012年4月21日、北海道
大学総合博物館(北海道札幌市)

〔図書〕(計1件)

藤野 真子、中国文庫、上海の京劇 メ
ディアと改革、2015、360

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤野 真子 (FUJINO, Naoko)
関西学院大学・商学部・准教授
研究者番号： 20332653

(2) 研究分担者

松浦 恆雄 (MATSUURA, Tsuneo)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号： 20173792

平林 宣和 (HIRABAYASHI, Norikazu)
早稲田大学・政治経済学術院・准教授
研究者番号： 40271358

三須 祐介 (MISU, Yusuke)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号： 60339653

田村 容子 (TAMURA, Yoko)
福井大学・教育地域科学部・准教授
研究者番号： 10434359

(3) 連携研究者

()

研究者番号：